

## 九州大学病院

研修医 堀内 敦史 2015年1月

はじめまして、九州大学病院初期研修医2年目の堀内敦史です。

2015年1月に初期臨床研修プログラムの地域医療研修として、1ヶ月出水市で研修をさせていただきました。

これまで鹿児島の地を踏んだことがなく、90%の期待と10%の緊張を胸に新幹線に乗りました。初めて見る出水市はのどかな田園風景が広がり、鶴がV字に飛来する光景は非常に美しくまぶたに焼き付いています。

研修は出水総合医療センターをはじめ、高尾野診療所、野田診療所、上場診療所、出水保健センター、特別養護老人ホームなど多くの施設で行いました。

研修を通じて感じたのは、患者さんと医療スタッフの距離の近さや、先生方の知識と技術の幅広さ、そして患者さん個々の生活環境を考慮して医療を提供することの大事さです。

診療所では、外来を中心に慢性疾患のフォローを中心に学びました。患者さんの多くは80-90歳前後のご高齢者でありましたが非常にお元気で、短時間での診察方法・プライマリケアを学ぶとともに私の方が元気を頂きました。

往診や上場診療所では、医療機関への受診が難しい方やへき地医療での医療行為を学びました。各家庭や社会背景を考慮し、柔軟な対応が求められ、また限られた医療資源の中での医療行為を学びました。そこでは患者さんと医療者との信頼関係が大事であり、高齢化社会において平等な医療を提供することの難しさを、実際に足を運んで話し、診察することで非常に強く感じました。

院内研修では小児科を選択し、外来や病棟で発熱、予防接種などたくさんの症例を経験しました。診断し治療を行うだけでなく、患者さんやその家族に安心を与えることがより良い医療につながると感じました。

地域医療研修を通じて、プライマリケアには複数の健康問題を横断的に診る対応能力の他に、医療面だけでなく総合的に患者さんを診る為の幅広い知識、社会性・人間性が不可欠であり、全人的アプローチを目指す必要があると感じました。

1ヶ月間熱くご指導頂いた先生方、サポートして頂いたコメディカルの皆様、そして色々なお話を聞かせて頂いた患者様に御礼を申し上げます。

今回の研修で学んだこと、経験したことを糧に、一人前の内科医になれるよう今後も一層努力を続けたいと思います。本当にありがとうございました。